

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第1回郷育推進会議
開催日時		令和6年6月7日（金） 18:00～19:00
開催場所		市役所別館1階 大ホール
委員名		（1）出席委員 伊藤副会長、木本会長、原尻委員、柳田委員、濱田真委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員 （2）欠席委員 東委員
所管課職員職氏名		教育部長 石津 輝昭 郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課郷育係長 坂本 剛章 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人
会 議	議 題 （内 容）	○郷育推進課の主要事業の概要説明 ○今年度の郷育推進会議の活動について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	3人
	資料の名称	○令和5年度 郷育推進課事業報告 ○令和6年度 郷育推進課主要事業
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局挨拶

1. 開会のことば

2. 部長あいさつ

3. 協議事項

●事務局

○郷育推進課の主要事業の概要説明

＜令和5年度事業報告を郷育推進課の係ごとに実施（別紙参照）＞

●会長

質問等あればどうぞ。

●委員

市の主催事業として、年間の行事予定表を地域コミュニティ課から2月頃もらうが、今出ていたソフトボールやソフトバレーボール大会日程が6月頃の予定といって形でくる。郷づくりとコミュニティ・スクールと関わっている立場でここに来ているが、その時点で日程の確定は難しいのか。

●事務局

行事予定を公開するタイミングで日程が確定していないので難しい。

●会長

300歳ソフトボールは決まっているのか。

●事務局

おおよその日程は例年決まっているが、他団体との調整等もあるので確定まではできていない。あくまでも予定で動いて、場所等の確定ができてから初めて発表できるような状況。

●会長

日程が確定すれば市の公式ホームページやLINEに掲載されているのか。

●事務局

日程が決まれば募集もあるので、お知らせはすぐできるような形はとっている。

●委員

自治会長には案内が出ているので同時に郷づくりにも欲しい。

●会長

できれば早めに情報がもらえるような流れができておいた方がいい。

体育協会事業の項目の体育協会は、この主催事業というところは全部段取りをしているのか。また、何人ぐらいいるのか。

●事務局

体育協会の下部組織であるバレーボール協会などが段取りを行っている。団体としては19の協会があり、人数の把握はしていないが事務局として5人程度。

●会長

7,8年前までは体育協会が指定管理を引き受け体育施設の管理を行っていたので、福間体育センターが事務局になって体育協会のかたの姿が見えたが、今は公民館の部屋を使っているほとんど姿が見えないという印象があり、何人ぐらいでどういう活動をしているのかと思った。

●事務局

事務局としては毎週水曜日に事務所で連絡等を行っている。

●会長

予算が結構ついているから、どういう活動をされているのかと思った部分もあった。

もう1つは、宮司自治公民館新築工事というのは、新しいものを建設してそれが立ち上がったら古い方を壊して、体育館を残すと聞いていたがどうか。

●事務局

体育館は運動ホールとして残っていて、宮司公民館は地区公民館としての機能廃止ということで予算要求をしていて、今後取り壊す予定になっている。今回新しく建設した公民館は、宮司2区が建てた自治公民館になる。

●会長

次に、令和6年度の事業の説明をお願いします。

●事務局

<令和6年度主要事業を郷育推進課の係ごとに実施（別紙参照）>

●会長

令和6年度の主要事業に関して何かご質問等があればお願いします。

●副会長

質問というより意見になるが、中学校部活動改革検討協議会と並行して行っている中学生未来会議は、中学生が考えて何か提言するような流れだと思うが、中学生未来会議で中学生が提言したことに対して市としてこうしましたという返しはあるか。

●事務局

実際に実現されたものというものはおそらく今までない。

●副会長

中学生の考えることを全てその通りにできるとは限らないので、こういう理由で実現できなかったというのはありだと思う。ただ、この事業の目的が「中学生が主体的に参画できる具体的な取り組みを考え、実現に向けた行動を起こす」なので、それを受けて市としてどう動いたかを返してあげないと、せっかく考えてくれた中学生はかわいそう。部活動の地域移行だったら、具体的になにかは絶対返事できるはずだと思うので、今回をきっかけに皆の意見を受けてこうしたというのを必ず子どもに返してあげてほしい。

●会長

ちなみに昨年度の提言はどういう内容だったのか

●事務局

把握していない。

●会長

今年は部活動地域移行の話で、大人のかたもその会議をしているので、その流れの中である程度そこに対してのリアクションというのはあると思うが、今までも一生懸命子どもたちは考えて提言してくれていると思うので、ぜひ、機会があれば確認していただければと思う。

●事務局

承知した。

●会長

意見ではないが、去年自分が関わって改めて思ったことがある。まちづくり講座出前編の「郷育カレッジってなあに?!」講座でいろいろなところに出向く機会があったが、出前講座で郷育カレッジ講座をやると講師料を行政側が負担してくれて、1団体1回頼めるが意外にまだまだ知られていない。ただ、市の予算があるため数の上限がある。

●事務局

まちづくり講座出前編の大半は市の職員を無料で派遣しているが、職員以外の講師のかたを派遣する場合は、郷育カレッジ講座と同じ講師料をお支払いしている。そこに人気集中しすぎると予算が足りなくなるので、郷育カレッジの講座を依頼するのは1団体1回。予算が限られている中で、職員以外の講師への依頼が多くなってくると、また考え直さなければいけない。

●会長

出前講座に関しては、市職員が来てもらえるということも含めて知らない方もまだいると思うので、どんどん活用していただきたい。上限はやむを得ないと思うが、ぜひとも社会教育に当たるものを、地域の皆さんがどこに頼んだらいいのだろうかではなくて、郷育推進課にお尋ねして、こういう勉強会をしたいが講師がいるかということを知ってもらっていいということは、広くお伝えしてもいいのではないかなと思う。

●副会長

関連して、郷育カレッジは受講生が受けに行くだけと思い込んでいたが、市の職員のかた以外のカレッジ講師が依頼を受けて出張講座で行くこともあるのか。宗像市はルックルック講座という派遣型に特化したものがあり、1講座が1回ではなくて申し込む1団体が1回までというシステムなので、予算など宗像市と情報共有すると何か参考になるかもしれない。

●会長

カレッジ講座も1団体が1回。

●副会長

そうすると1人の講師が何回も行くこともあるのか。

●会長

ある。副会長が今知ったというくらいなので、まだ知らないかたが結構多い。学校として呼ぶことも可能。

●委員

話は変わるが、全体的に見てみると中学生まではいろんなイベントなどが多いが、それが終わったと思ったら二十歳のつどいまで何もない。それは管轄が違うのか、それともただ単に作っていないだけなのか。高校生の部門だけ見放されている感じがある。高校生は大人扱いも子ども扱いもどちらの分類もされる。中学校を卒業したら二十歳のつどいになっていて、空白の3年間になっている。管轄が違えばそれまでかも知れないが、その辺をどう考えているのか。高校生が何にしても一番お金がかかる時期でもあるし、知識に関しても、一番大人と子どもの境目で大事なことだと思うが、来年再来年以降、なにかそういうイベントや行事みたいなのも作ったらいいのではないかとか思うがいかがか。

●会長

その通りのご意見だと思う。小学校中学校は福津市立だが、高校は県立になるので設置者は違うというのはあると思うが、高校生が参加できますというような歌い文句は確かにない。高校生というワードが1個も出てきていない。中学生未来会議など、中学生という言葉がたくさん出てくるが、社会教育という視点からいったら実際福津市には光陵高校と水産高校があるので、今すぐに結論は出ないが、高校生となにかをするというところを、今ある既存のものでも、なにかそういうワードを一つ組み込んだ、高校生が対象に入っているということが分かるようにするということは可能だと思う。

●副会長

設置者の問題は大きい。小中学校は市町村が設置者だが高校は県になる。その問題もあるが、そもそも忙しい。高校独自のいろんな行事や、最近だと探究的な授業で視察に行ったりもしている。多分、高校生参加募集と看板を掲げて開いたとしても、あまり手が挙がらないのではないかな。ただ、マイナス的なことを最初に言ったが、光陵高校は福津市の中学生からぜひ進学してほしいという強い思いがあって、重点目標として小・中学生との連携という

のをあげているし、高校でもコミュニティ・スクールが広がり始めた。地方の高校なども定員割れしているので、そういう関係で中学生と一緒になにかやりたい高校も増えてきているので、流れを考えると、今後は高校生も参加するようになってくると思われる。だから、そういう視点で高校に対して広報活動はしたほうがいい。

●会長

光陵高校のうみがめクラブは、郷育カレッジ講座の講師になってくれている。以前は水産高校もやってくれていたが、高校も校長先生が変わると、方針がガラッと変わって止まったことがある。次年度はまた水産高校とも連携を取りたいと思っている。委員の言われた視点で、中学校からいきなり二十歳のつどいになるという適切なご意見をいただけたと思う。

以前は、年度第一回目の会議が、事業報告や主要事業の説明を読み上げるだけのような感じだったが、昨年一昨年と、皆さんとどう連携していくとか、皆さんがどのように活動をしていてそれを繋げたらいいかということをするごく話し合う機会が多かった。今回の資料に挙がっている事業に関しても、自分たちが関わってないところの事業も改めて整理して確認するのがこの1回目だと思うので、ベースになるこれらの事業の全体像というのは皆さんと一緒に共有しておいたほうがいいと思う。

続いて、今年度の郷育推進会議の活動についてお話しする。今のメンバーが、2年間の任期のちょうど1年を終えたところ。去年は福岡ブロック社会教育委員研修会があり、物理的な作業がかなりあり、皆さんにご協力いただいて無事終えることができた。今年1年はどういうふうにやっていくか、事務局や副会長、他の部署の人とも話した中で、昨年度の最後の辺りで皆さんとも検討した、生涯学習そのものの中間見直しというものが本来あって、いろいろと変わっていくところに対応しているかということを確認しなくてはいけなかった。しかし、今、教育長不在の中で、教育委員会において諮問などいろいろなものが的確に動いている状況ではない。そういうところで、私たち独自というわけではないが、いろいろと相談していく中で、昨年、文化協会と市子ども会育成会連合会が連携して、一つ事業ができたという話も聞いている。また、繋がるという意味で、今、地域コーディネーター2人に当会議に入ってもらっているので、コミュニティ・スクールというか学校との連携、社会教育との連携というのも進められるように動いている。実際は、去年の福岡ブロック社会教育委員研修会も、地域コーディネーターのかたにいろいろと協力していただいたところもあったので、できれば今年はその「繋ぐ」ということを、もう少し皆さんと検討・勉強していけたらと思っている。

前回の会議までに時々言葉として出していた、地域コミュニティ課がやっている「キッカケラボ」というところが中央公民館の中の未来共創センターにあり、いろいろな地域活動をされているかたを繋ぐ活動をしている。私たちは、社会教育の団体として学校と繋がれるように、社会教育の活動団体もお互いが繋がり活性化できるようにと思っているので、キッカケラボは繋ぐということはどういうふうに広げていくかと思っている。キッカケラボでは、いろいろな活動団体にリサーチやヒアリングをされている。地域活動だけではなく、民間の企業などいろいろなところにも回られている。要するに、キッカケラボは繋がりたいと思い、こちらは繋がる方法を模索している最

中というところで、同じ福津市の中にあるそういう組織や活動をもう少し知ってみたらどうかと思っている。

こうしなくてはいけないとか、無理やりやらなくてはいけないということではなくて、できることがあれば、そこが繋がると今まですごく困っていたことがスムーズに進み始めるかもしれないということで、今、絶対にキッカケラボと連携しなければならないということではない。

要するに、キッカケラボという組織があるということを、もう少し皆さんで知って、逆に向こうにもこちらの活動をもっと知ってもら。そして、人材を探しているときに、地域の中のこういう活動をしている人がいるとか、学校もコミュニティ・スクールとかもそうだが、こういう人が誰かいませんかというところで、学校と地域が繋がるというところがそもそもコミュニティ・スクールの形になっている。

郷育推進会議とは社会教育委員の会なので、教育委員会の中から諮問というものを受けた場合に、その諮問を受けて答申をするというのが一つの仕事になる。その諮問がどういう種類かにもよるが、今のところその具体的な諮問というものがここ数年来ていない。生涯学習の推進計画についての諮問を受けて、それを作ったのも5、6年前になる。

その後は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する間、なかなか動けなかった。それと去年は、福岡ブロック社会教育委員研修会の担当に当たったということもあったので、私たち独自の活動としてどう動いていくかということを考えながらここまできている状況。ただ今年は、地域コーディネーターや学校の先生に入ってもらったことで、いろいろ視点というか視野が広がって来始めたいいい機会だなと思っている。そもそも、私たちは市民でありながら知らないことも多いと思う。改めて他の関係組織などと相談して、次の会議から、皆さんと他の関係組織の勉強を兼ねて、なにか効率よく繋がるための、お互いがWin-Winの関係になるようなものがやれていけばいいと思っている。

●副会長

社会教育委員の役割に、諮問を受けて答申する以外に調査研究というものがある。近いうちに生涯学習推進計画も作らないといけないので、そこに向けていろいろと材料を集めるという意味合いもある。繋ぎたい団体のキッカケラボがあり、いろいろな社会教育団体がある。繋がりたい団体もあるし、繋がらなくてもいいと思っている団体もある。ただ「繋がりたい・繋ぎたい」というものを動かすときに、なにかしら壁があるとしたら、どんな壁があってそれはどうしたら上手くいくかというのは、結構行政の出番があったりする。そのため、組織上の制約などを整理しておく、今後生涯学習推進計画を考えていくときに役立つ材料になるのではないかな。

●会長

生涯学習推進計画は1回作って10年間で更新する必要がある、あと3年ぐらいで10年が経つ。だから、次の計画を立てるときには間違いなく諮問が来るので、それに向けて準備し始めないといけない。この10年でいろいろ変わったと思う。子ども会があれだけ減るといえるのは10年前では考えられなかった。コロナの影響ももちろんあると思うが、なによりも日蔭野地区を含めて、人口がこれだけ増えると思わなかった。そういう状況が変わった中で、

市民が生き生きと生きて学ぶということを、どういうふうに応援できるか考えていかなければならない。いろいろな材料を集めると同時に、自分たちも勉強になるからそういう予定で今年は進めたいと思っている。できるだけ皆さんそれぞれが役に立ったと思える勉強会ができればいいと思う。

また、関係する組織に、こちらからまだなにも具体的に言っているわけではないので、相談してみて、また次回の会議のときには「こんな形で会議を進めていきます」ということはご報告したいと思う。

○報告事項

●事務局

- ・社会教育委員の新任者研修会の案内

6月10日締切

- ・郷育カレッジの開講式の案内

7月13日開催

郷育カレッジの開講式は大体式典みたいなものになるが、今年の式典は神興小学校の子どもたちのオープニングイベントや、放送大学の教授の公開講座を行う。できればお近くのかたなどに広めていただけたらと思う。

郷育カレッジの冊子は各家庭に届いていると思うが、郷育カレッジの講座は土日に行っている講座もあるので、もしよろしければお読みいただければありがたい。

●会長

郷育カレッジのオープニングイベントについて、簡単に紹介を。

●委員

今の中学1年生の時代から、毎年小学4年生がフードロスについて勉強することが始まった。地域のかたや小学校の保護者に呼びかけて、賞味期限が1ヶ月以上あるもの、家庭では不要だがまだ使えるものや食べることができるものを集めて、それを必要な方にお分けする。1年目の時は、コロナ渦であまり集まらなかったのも、キッカケラボをお願いして引き取っていただいた。次は小学校でまた集めて、小学校のご近所さんに声をかけて持って帰ってもらった。昨年もそういう方法でやって、昨年は絆ランチと一緒に合同開催にした。必要な方は持って帰ってくださいということで、子どもたちが一生懸命集めてポスターを張ったりお願いに回ったり、呼びかけた。今回のオープニングイベントでは、4年生の時に勉強した子たちが5年生で発表するという形になっている。

●会長

発表を郷育カレッジの開講式でステージの上でもらうので、ぜひ参加を。

新任者研修は新任でないと駄目というわけではなく誰でも参加できる。昨年から午後の部がワークショップになっていて、いろんな方といろんな話ができるものすごく面白いので時間が合えばぜひ参加を。

●副会長

今後の会議に向けて、会長からどんなアンテナを張ってほしいか話があったと思うが、いろいろな団体がどう繋がりたいか、どういうことに困っているか、そういうそれぞれの団体がどんなことを期待しているか、その辺はご所属の団体や周辺の情報にアンテナを張って仕入れて今後の会議に生かしていただければと思う。

これで第1回目の郷育推進会議を終了する。

○次回開催日について

7月25日（木）18時30分